

## 文字文化財研究所の活動実績と計画

愛知県立大学文字文化財研究所は、県立大学の改編によって新設の日本文化学部（国語国文学科・歴史文化学科）の事業としてうけついでおります。研究所の構成員は、日本文化学部の教員全員と、本学名誉教授で「あいち国文の会」を主宰する野崎典子が客員共同研究員として加わっております。所長は小谷成子にかかりました。

日本文化学部が新設されました今年度、佐々木雄太学長・犬飼隆学部長のお力添えによって、年報は第三号から冊子とすることが出来ました。「いずれは冊子になることをめざします」と、年報第二号に後書きいたしました念願が叶いました。感謝いたします。

平曲の荻野検校顕彰会との連携では、「『平家正節』盲人伝承八句くライブ映像と検索く」が刊行されました。これは、科学研究費補助金「戦に関わる文字文化と文物の総合的研究」（代表者・県立大学教授遠山一郎）の研究成果報告書です。また、六月には第十四回、十一月には第十五回の平曲鑑賞会を共催いたしました。第十五回には犬飼学部長が「ことばと譜と声」と題して講演を行いました。

「戦に関わる文字文化と文物の総合的研究」との連携では、先に述べました他に、六月に「能と狂言の催し」（能は宝生流「八島 那須与市語」演者は辰己満次郎師他、狂言は和泉流「文蔵」演者は佐藤友彦師他）を名古屋能楽堂にて行いました。

県立大学附属図書館との企画展示では、展示の説明・講演会を担当しました。四く五月に「源氏物語―受け継がれる意匠」九く十月に「デザインズムく100年目の太宰治く」・山口俊雄准教授の関連講演「ひとこと余計な太宰治」（詳しくは活動報告をご覧ください）、十く翌一月に「名古屋言葉絵葉書」（本学院生成田道子他）を行いました。

「あいち国文の会」との連携では、九月九日に第100回の記念講演会を長久手町文化の家・風のホールにて行いま

した。大阪大学名誉教授・元愛知県立大学教授島津忠夫先生の講演「日本文学と作品の成立と諸伝本」です。詳しくは、浅井圭子氏による活動報告をご覧ください。

日本化学部新設記念企画の国際シンポジウム・2009年度公開講座との連携では、一月三日に「日本文化の多元性をさぐる」の公演・パネルディスカッションが本学講堂で行われました。講演は「古代韓・日」「日・韓」の文化交流―相通じる古代東アジア世界―」尹善泰氏（東国大学校歴史教育科助教授）、「日韓における歴史大河ドラマとナショナルリズム」朴順愛氏（湖南大学校日本語学科教授）、「陶磁学の提唱―沈船引揚げ資料からみた東アジアの交流―」森達也氏（愛知県陶磁資料館主任学芸員）、「ポルトガル語日本語の比較研究からみた日本文化」ジュンコ・オタ氏（サンパウロ大学哲学人間科学部教授）、「美術史からの日本文化」マダレナ・ハシモト・コルダロ氏（サンパウロ大学哲学文学人間科学部教授）。アトラクションとして、知立からくり保存会による「一の谷の合戦」が公演されました。

所員の資料調査としては、名古屋市博物館（四月）、名古屋市立菊里高等学校（五月）、犬山市白帝文庫（七月）、名古屋市鶴舞図書館（七月）、愛知県立旭丘高等学校（翌一月）などです。

「愛知県文学資料館」との情報ネットワークの構築を致しました。

本学の名誉教授であります尾崎知光先生から、国語学史関係の資料が寄贈されました。犬飼学部長・宮崎真素美センター長・図書館職員の皆様のお世話によるものです。研究所では受人目録の作成・資料の研究・解題の作業中です。

来年度もこれまでの活動をさらに充実させ、文書類の調査研究、情報の発信をいくつか予定しています。こうした資料類は、大学における教育の場でも生かしております。

年報第三号の最後に、年報第一号・第二号をおさめましたのでご覧ください。今後とも一層のご支援とご協力をたまわりますようお願い致します。